

<評価指標>

1. 着眼点（社会的貢献度・敬心学園の教育への貢献など）  
研究構想や研究目的が具体的かつ明確に示されているか。
  - ・学園の教育理念、教育目的に合致している。
  - ・敬心学園の教育活動に貢献できる。
  - ・当該研究分野もしくは関連研究分野の現場実践（技術）の向上や研究の発展に貢献できる。
  - ・対人援助の対象となる人々のウェルビーイングの向上に貢献できる。
  - ・当該研究分野もしくは関連研究分野における社会システムの向上に貢献できる。
  - ・研究結果の社会への発信・発表や広報を想定している。
  
2. 研究の独自性（研究としてのオリジナリティ・先行研究の確認）  
研究対象、研究手法やもたらされる研究成果等について、独創性や革新性が認められるか。
  - ・先行論文の検証が 5～10 件程度は行われている。 ⇒3 良好である
  - 20 件以上行われている。 ⇒4 優れている
  - ・関連文献などの検証が 2～3 冊以上レビューされている。 ⇒3 良好である
  - 5 冊以上レビューされている。 ⇒4 優れている
  - ・独自性の根拠を論理的に説明している。
  
3. 研究方法（研究方法の具体性・内容の適確性）  
研究目的を達成するため、研究計画は十分練られたものになっているか。  
研究期間は妥当なものか。
  - ・一定の研究方法を予定している。
  - ・予定されている研究方法は、研究内容と整合性がある。
  - ・月別予定を含む研究計画が示されている。
  - ・研究の段階を示している。（過去の実績、将来の展望など）
  
4. 達成課題の設定（研究の具体性・1年での成果目標の具体性）
  - ・課題に対する仮説が示されている。
  - ・研究全体としての達成課題が明確である。
  - ・今年度の研究の達成課題が明確である。
  - ・達成課題到達度の評価基準が示されている。

5. 研究の発展性（研究の展望があるか・外部研究費の申請への展開・など）  
当該研究分野もしくは関連研究分野の進展に対する大きな貢献、新しい学問分野の開拓等、学術的な波及効果が期待できるか。
- ・本年度の研究を踏まえた次年度以降の研究計画に触れられている。
  - ・外部研究費申請への展望が示されている。
  - ・現場実践や教育実践を改善変革していく展望が示されている。
  - ・当該研究分野もしくは関連研究分野における研究へのニーズの高まりについて示されている。
6. メンバー構成（学校間をまたがる複数メンバーが望ましい）（事務局評価）
- ・3～5人程度の複数メンバーによる共同研究である。
  - ・メンバーが、学校間や他機関などに広がっている。
  - ・将来のメンバー増員や広がりへの展望が示されている。（その可能性がある）
7. 予算執行方法の妥当性（事務局評価）  
研究経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるか。  
設備備品の購入経費等は研究計画遂行上、真に必要なものが計上されているか。
- ・研究に必要な消耗的経費（取材交通費・取材謝礼・送料・関連資料購入、など）が中心となっている。
  - ・個々人の研究活動経費（当該研究成果の発表を含まない学会出張など）を含まない。
  - ・各校に常備されている一般的文房具費を含まない。

#### <評価の方法>

評点区分評定基準

- 4 優れている
- 3 良好である
- 2 やや不十分である
- 1 不十分である